

# 平成29年度第1回学校評議員会の実施報告書

---

学校名

岐阜県立可茂特別支援学校

校長 田口 正芳

所在地 美濃加茂市牧野 2007-1 電話 0574-28-3150

---

1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校学校評議員会

2 会議の構成委員

板津幹彦 NPO 法人プラス・ワン理事

大脇房夫 レストラン・リリアーヌ経営

前田直子 可児市発達支援センターくれよん所長

水谷 敬 元公立学校校長

片桐英雄 下米田地区自治会会長

学 校

田口正芳 校長

有本美智恵 P T A 会長

大前幸弘 事務部長

石原和寿 教頭

河合浩司 小学部主事

社本教恵 中学部主事

野々村健 高等部主事

吉村智典 高等部主事

高井深雪 教務主任

3 会議の目的

学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。

4 会議の開催

平成29年5月15日(月) 9:30~11:20

可茂特別支援学校 会議室

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

(2) 本校の概要説明

(3) 授業参観…運動会に向けた応援練習

(4) 高等部作業製品(50品目)の価格設定について(協議)

・価格設定については、すべての製品について適正との判断を受け、提案のとおりとなった。

#### (5) 学校評議員の意見、質問

意見1：国の方針では、障がい者雇用として、精神障がい者の雇用を進めようとしている。知的障がい者の抱える課題とは違った課題が生じている。発達障がいへの支援の充実が進められているが、精神障がいとの関連や、学校ではどのような状況か？

回答→「発達障がい」だけで本校に入学はしてこない。知的障がいを併せもってれば知的障がいの教育を受け、不適応行動など精神疾患の状態であれば、病弱教育を受けることになる。

意見2：卒業後の就労支援や、社会生活が学校教育の重要な目的になる。卒業後の「追跡調査」のようなものはあるのか。そういう卒業後の実態を把握することで、在学中の教育の課題や方向性も見えてくると思う。

回答→卒業後も追支援という形で、支援は継続している。

意見3：子どもたちが、生き生きと運動会練習を頑張る姿を見せてもらった。子ども自身が学校に来る目的がはっきりあることで、さらに楽しくなる。そういう教育活動を展開してもらいたい。

意見4：作業製品を作成する動機づけとして、製品に生徒にわかるストーリー性があるとよいのではないか。単純な「器」としてだけでなく、自分の作るものの意味をもつことで、意欲につながるものと考えてる。

意見5：将来の社会生活のためにも、近隣の小学校や中学校との交流会など、交流の機会はあるのか。かかわりがあることで障がいへの理解が深まる。また、障がい者にとっても理解者が増えることになり、重要なことだと思う。

回答→小学部：学校間の交流はないが、多くの児童がそれぞれの居住地において居住地校交流を行っている。授業参加や、行事参加、お手紙交流など児童に応じた内容、回数で、積極的に交流している。

中学部：小学部同様に各生徒が居住地校交流を行っている。また、東中学校との学校間の交流活動も行っている。

高等部：東濃実業高校、加茂農林高校等との作業学習を主とした共同学習を行って製品の作り方を学んだり、同年代の高校生と交流したりしている。卒業後に向けて、現場実習等、企業との連携が中心になっている。

#### 6 会議のまとめ

各委員からは学習活動全般において概ね高い評価をいただいた。高等部卒業後、地域で豊かに生活していくために、学校と地域の連携をさらに強化することが重要である。